

# 世界大学オリエンテーリング選手権 2014 報告書

京都大学 4 年 松下睦生

## 1. はじめに

2 年前、JWOC2012 の選考レースに落ちて以来ずっと WUOC2014 には出場したいと思っていました。海外でのオリエンテーリングを経験したいと常々思っていました。選考会での結果は芳しいものではありませんでしたが推薦で選んでいただいたときは非常に嬉しかったです。

## 2. 本戦までの取り組み

基本的には昨年度のインカレミドルに向けた取り組みと変わりませんでした。平日は週に 2 回強度の高いトレーニングと週に 1 回の LSD、週末はオリエンテーリングといった具合で月に 250km~300km 走っていました。

出場する種目はロング、スプリント、リレーでしたので種目別に少し対策はしました。まずロングですが旧図を見る限り得意なタイプのトレインだったのもあり最も重視していました。昨年度よりは長い距離を走る日を増やすように努力しました。次にスプリントですがこれはロングの翌日ということもありおそらく最大限の力を出すことは難しいと思っていたので単純に楽しもうと思っていました。最後にリレーですが非常に平らなトレインであるため最も対策が必要だと感じていました。選考会も直進が上手くいかなかったのもあり本選までは歩測の練習に力を入れました。

## 3. 現地入りから本戦まで

トレキャンと院試がかぶってしまったため院試が終わった日の夜の便でチェコに向かい、その次の日の朝にプラハに到着、その日の午後からロングのモデルイベントで 10km 走るという強行スケジュールになってしまいました。そのせいかモデルイベント期間中は毎日のように走っている途中で気分が悪くなってしまい本戦に不安を残すこととなりました。

## 4. 本戦

◎ロング 100 人中 56 位 103:19(+24:05) トップ比 130%

斜面のきつさは日本とそう変わらないようなトレインでしたが走行可能性が非常に高く日本よりはるかに爽快なトレインでした。コースもロングレグのルートチョイスが少し難しかった以外はそこまで難しくなくうまく対応することができました。現時点で最大限の力を発揮できました。体感ではミス率 3%を切る走りをできたと感じました。トップ比を見ても radio1、radio2、finish とほとんど同じなのでペースを落とさずに走りきれたのもよかった点です。そのため今後の課題は体力の向上です。

◎スプリント 108人中 74位 18:15(+4:01) トップ比 128%

動物園とその周辺の街中を使用したコースでした。動物園から脱出するロングレグが一見距離が近そうに見えるルートは登り返しが多くしんどいというところまで読まなくてはならず難しかったです。

案の定前日のロングの筋肉痛が残ってしまっていてスピードが落ちてしまいました。しかしそれだけではなく隣ボにつられたりルートを間違いかけたりと地図読みが甘い部分もあったのですばやい地図読みがまだまだ足りていないと実感しました。ただそれ以上に念願だった海外スプリントに初めて出場することができて感激でした。動物園の中や海外らしい街中でオリエンテーリングができて純粋に楽しかったです。

◎リレー 第2チーム (松下一高橋一戸上) 一走 39:23(+8:29)

非常に平らなトレインのため基本的に直進ですがコントロールは藪に隠されているようなレグが多かったです。さらに藪の中で隠されているところでうまくパターン振りがあったりして難しかったです。こちらも爽快に走れて楽しかったです。

チームはトレキャンに参加できなかったこともあり第1チームから漏れてしまいました。そのためせっかくの機会なので世界の選手の走りを間近で見たいと思い1走を走らせてもらいました。目標は第1チームより先に帰ってくることでした。実際に走ってみるとスタートしてすぐから地図が読む読めない云々以前に走ってついていくことすらできない速さでどんどん見えなくなりました。自分のパターンのおかげかはわからないが最初の振りで先頭の一つ後ろの塊ぐらいではしることができたのはよかったです。徐々に抜かされてしまい結果的に後半はほとんど一人になってしまいました。レース自体はミスがほとんどありませんでしたが体力がもたずただただ抜かされていくのを見ることしかできなかったのが悔しかったです。目標は達成できましたがまだまだ課題はありそうです。

## 5. 最後に

念願だった海外でのオリエンテーリングを経験することができ本当に楽しかったです。海外の選手の走りを間近で見ることができ自分には体力が圧倒的に足りないことも実感しました。本戦は満足できる結果が残せましたし、これからの課題も見つかりましたし、オリエンテーリングだけでなく現地での生活全てが楽しかったし、本当にいい経験になりました。最後に現地でサポートしてくださった大西さん、谷川さん、チーム他の選手のみなさん、日本で応援してくださったみなさん、ありがとうございました。